

聖書箇所:マタイの福音書27章11~31節  
「イエスの沈黙」

【1】 総督ピラト

- ・「死罪に値する」との訴えに対し最悪の事態回避のため行動を起こすのが世の常
- ・イエスの沈黙
  - 自分に不利な証言に対しても反論しない(マタイ 27:13)
  - 総督が驚くほど(マタイ 27:14)
  - 怯えて口をつぐんでいるのではなく明確な意思を持って
- ・ピラトの常識
  - 普段から自分の利益を守るための立ち回りを意識
    - ※祭司長たちや長老たちも同様
  - 「イエスは死刑に値する」の動機が「ねたみ」と理解(参照マタイ 27:18)
  - 祭司長らと直接対立を避け、群衆を利用しイエスの釈放を試みる

【2】 ピラトの恐れ

- ・「私にはあなたを釈放する権威があり…十字架につける権威もある」(ヨハネ 19:10)
  - イエスが釈放を懇願しないので自らの権威を示したピラト
  - ユダヤ地方においてローマ皇帝の代理人としての権限
- ・ピラトの恐れ
  - 世界中から巡礼者がエルサレムを訪れる過越の祭中の暴動(マタイ 27:24)
  - ユダヤ人たちの逆襲(ヨハネ 19:12)
- ・人を恐れ、総督の権限を正しく行使することが出来なかったピラト

【3】 イエスの沈黙

- ・沈黙を通して語られたこと
  - 「彼は痛めつけられ、苦しんだ。だが、口を開かない。屠り場に引かれて行く羊のように、毛を刈る者の前で黙っている雌羊のように、彼は口を開かない。」(イザヤ 53:7)

▷屠り場に引かれていく羊のように十字架へ向かい、十字架上で私たちの罪をその身に負われたイエス。イエスの沈黙の中に、神の私たちへの愛があらわされているのです。

